

産学共創におけるコミュニケーション能力の涵養

Fostering communication skills to undergraduate students in industry-academia co-creation social context



池田 光穂

いけだ みつほ

大阪大学COデザインセンター

おおさかだいがく・こ・でざいんせんたー

rosaldo@cscd.osaka-u.ac.jp

2020年11月26日OSTEC 8階ホール

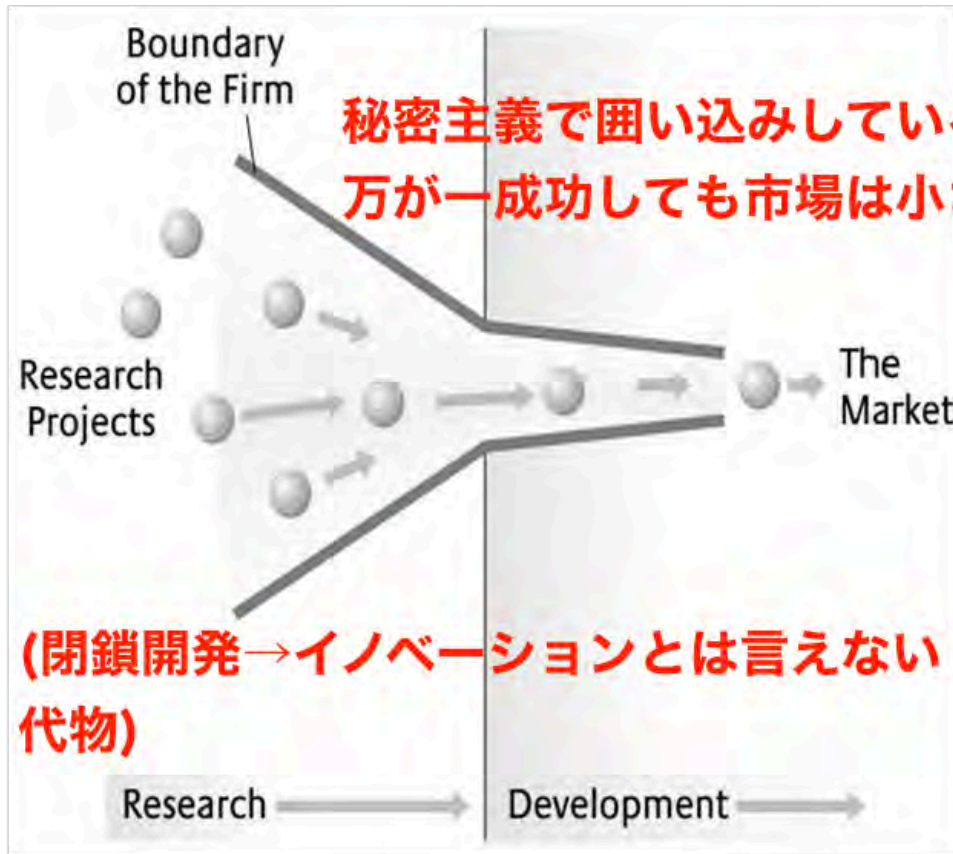
共創イノベーションの失敗の歴史から学ぶ

- 日本におけるこれまでの、大学と企業のベンチャービジネスのほとんどは、それらのアクターの一方あるいは両方の知財侵犯により失敗してきた(=**大学人と企業人の創造観と倫理感覚の違い**)。そのような失敗から、企業は、大学との連携を嫌がり、べつの知的創造力をもつ企業を探すという。そして、大学は、ベンチャーが大学の金で運営しているために、企業損失には痛みを感じることなく、また類似のパートナーを探すという。このような状況が今後もつづけば、優良な私企業は(必ず実を結ぶという予測と確信がないかぎり)大学と絶対にパートナーになりたがらないだろう。大学が無反省な理由は、失敗しても痛くないという無責任体質と、研究者の後半生をこれに賭けるという切迫感と情熱がそもそも欠けているからである。そのようなことでは、産学連携の文脈でも「**破壊的イノベーター**」は生まれない。
- 情報の非対称性はしばしば疑心暗鬼をうむ→「**イノベーションの現場における対人コミュニケーション能力の涵養はますます重要になる**」

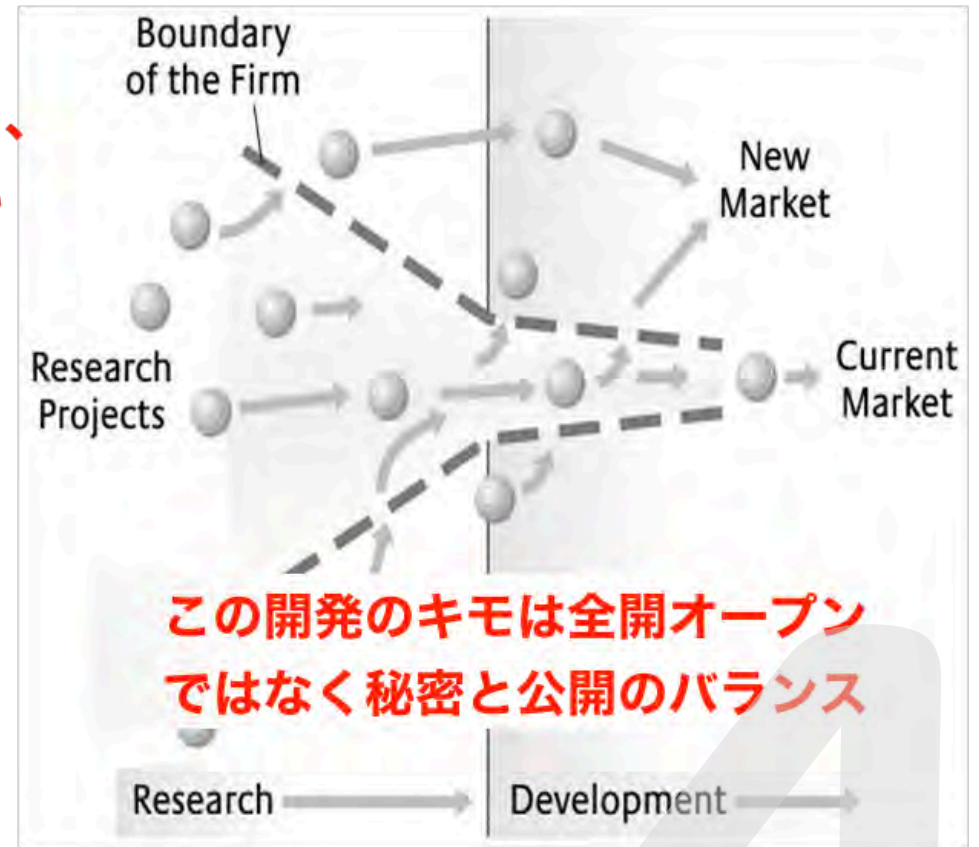
オープンイノベーションへの文化的理解

- オープンイノベーションとは、これまで会社（ファーム）が囲い込んでいたイノベーションの現場を、会社（ファーム）の外にまで広げて、イノベーションのスピードを促進させようとする事。要は、イノベーションにまつわる開発の現場を、密室（クローズド）的な環境から、オープンな環境に置くことで、よりスピードアップさせようとする方法である。これで一番喜ぶのは、（従来型の）会社のほうではなく、市場と消費者である。（従来型の）会社は、これに対して抵抗する傾向がある。しかし、米国のP&G社（Connect + Development）や日本のユニクロなどは、この方式を採用して、次々とヒット商品を出して、市場も消費者も喜びだしたので、（従来型の）会社は、オープンイノベーションのトレンドを無視することができなくなった。ウィキノミクスを提唱するドン・タプスコットなども、このトレンドに大きな関心をもっている。

オープンイノベーションの絵解き



クローズドイノベーション



オープンイノベーション

COVID-19 流行でますます広がる日本の傷口

学校・学校外でのデジタル機器の利用状況

◆日本は学校の授業(国語、数学、理科)におけるデジタル機器の利用時間が短く、OECD加盟国中最下位。

「利用しない」と答えた生徒の割合は約80%に及び、OECD加盟国中で最も多い。

◆日本は、他のOECD加盟国と同様、学校外で多様な用途にデジタル機器を利用している。

○他国と比較して、ネット上でのチャットやゲーム(1人用ゲーム・多人数オンラインゲーム)を利用する頻度の高い生徒の割合が高く、かつその増加の程度が著しい。

・「毎日」「ほぼ毎日」利用すると回答した生徒の割合の増加の程度(2012年調査との比較)

・「ネット上でチャットをする」: 日本60.5ポイント増、OECD平均15.4ポイント増

・「1人用ゲームで遊ぶ」: 日本21.3ポイント増、OECD平均7.1ポイント増

・「多人数オンラインゲームで遊ぶ」: 日本19.4ポイント増、OECD平均7.9ポイント増

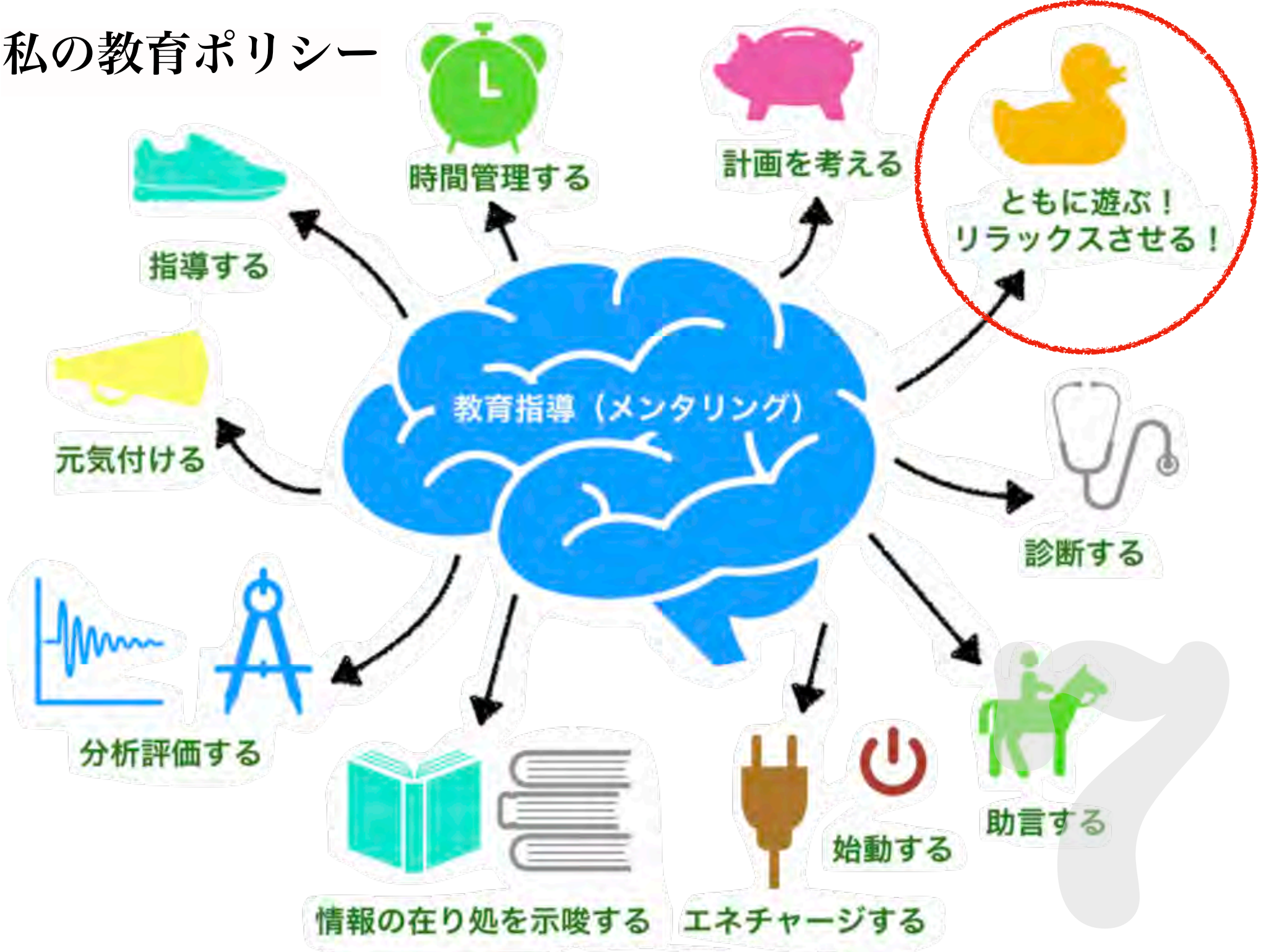
○コンピュータを使って宿題をする頻度がOECD加盟国中最下位。

+ 小中高における論理的かつ批判的思考能力(critical thinking)の欠如: 「大学に入学してからでは手遅れ」(友人のM教授)

骨太のコミュニケーション教育はCOデザインセンターから……

- 社会への幅広い関心と課題発見のための多様なスキルを学ぶ横断型高度教養・高度汎用力基礎教育プログラム「コミュニケーションデザイン科目」、Problem-Based Learning (PBL)も含む高度汎用力発展科目「COデザイン科目」からなりたつ科目を全学生に提供しています。また、兼任教員を通して「超域イノベーション博士課程プログラム」のコースワークの立案ならびに運営も担当しております。また、一般の大学では教養部や一般教育部に相当する大阪大学全学教育推進機構において、各部局や研究所等から提供されている高度副プログラム、高度副専攻、科目等履修生高度副プログラムを取りまとめ認証するための横断型教育部門の管理運営にも携わっています。

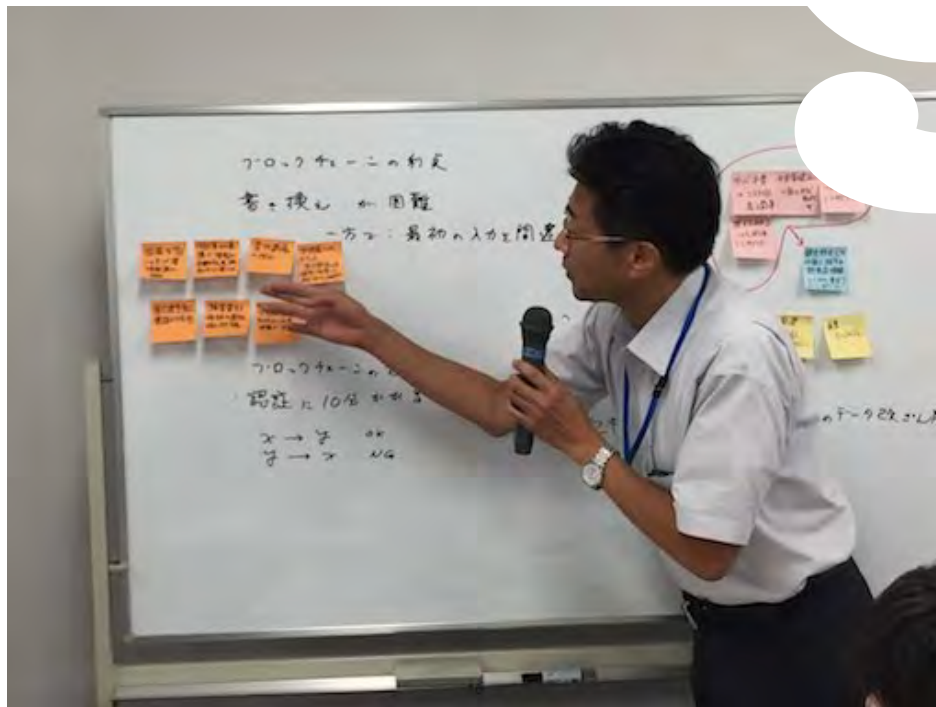
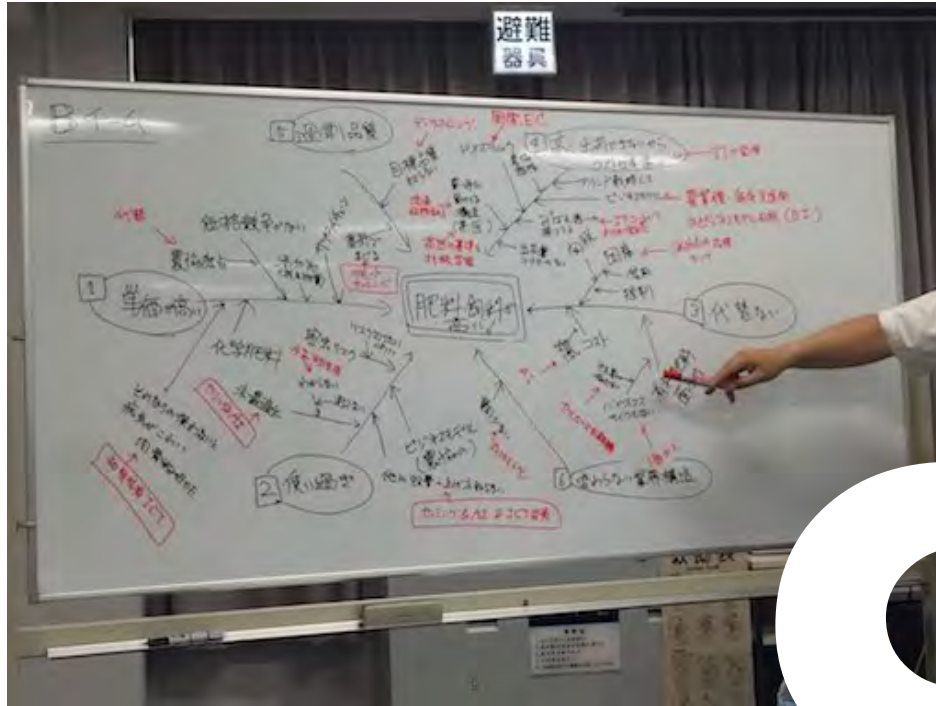
私の教育ポリシー



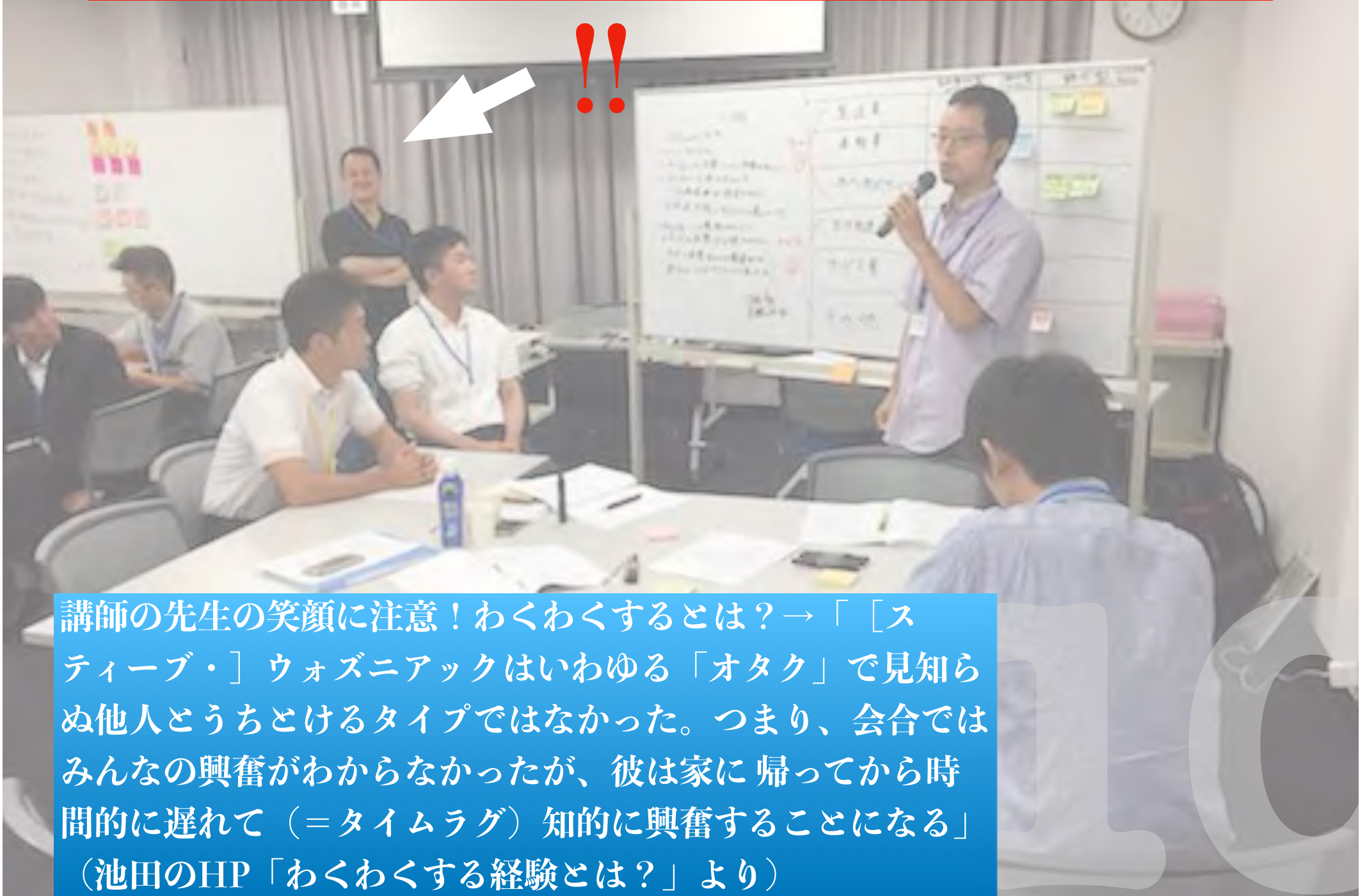
産学共創プロジェクトのご紹介01

- 大阪科学技術センター（OSTEC）では、池田（本講師）がコーディネーター&ファシリテータとして関わり在関西の企業の若手中堅社員を主に対象とした人たちに「幅広い視点から考え・整理できる力」を身に付け、「技術と時代の変化に対応し、新しい価値づくりに挑戦する人材」を養成することを目的とした「ネクストリーダー育成ワークショップ」という事業を2017年度より展開して多くの参加者に好評頂いてきた。2019年度まで「IoT、AI、ロボット、ものづくりにおけるイノベーション」と「ビジネスイノベーション」にそれぞれ焦点を当てた2つのプログラムを実施してきた。2020年度は「ビジネスイノベーション」を実施中!!

産学共創プロジェクトのご紹介02



プレゼン風景（ファシリテータのビズ・ノウハウのご紹介）



講師の先生の笑顔に注意！わくわくするとは？→「[ステイブ・] ウォズニアックはいわゆる「オタク」で見知らぬ他人とうちとけるタイプではなかった。つまり、会合ではみんなの興奮がわからなかったが、彼は家に帰ってから時間的に遅れて（=タイムラグ）知的に興奮することになる」（池田のHP「わくわくする経験とは？」より）

まとめ——この3つは覚えておいてねっ!!!

- 大学と産業界の共創が失敗する第一の原因は、現場における信頼とコミュニケーションの不足である!→だからコミュニケーション教育
- オープンイノベーションは全部すっぽんぽんではない!! 市場と顧客に対して《秘密=魅力》と《オープンネス=親しみやすさ》が融合したことである!!→だからイノベーションの鍵はウチとソトの区別とそのメリハリ
- 職場の指導者(メンターやコーチ)が成功する最大の秘訣は、ともに遊び、リラックスできるかにかかっている!!!→クソ真面目と熱血暴言根性物語よ、さようなら~♡



クレジット

産学共創におけるコミュニケーション能力の涵養（Fostering communication skills to undergraduate students in industry-academia co-creation social context）, 池田光穂、大阪大学COデザインセンター・センター長・rosaldo@cscd.osaka-u.ac.jp 2020年11月26日OSTEC 8階大ホール



12